



SDGs 未来都市

「水が生まれる信濃おおまち」

— 持続可能なまちづくり —



長野県大町市企画財政課

1. 大町市の概要



位置と地勢

本市は、長野県の北西部に位置する内陸都市で、北は白馬村、東は長野市、に接し、西は富山県や岐阜県に接しています。

市の西部には3,000m級の山々が連なる北アルプスの雄大な山々が連なり、東部には四季折々の変化に富んだ美しく豊かな自然に囲まれた昔ながらの里山の風景を残す農山村が存在している。

また、本市は、日本でいちばん長い川である信濃川水系の最上流部に位置し、北アルプスを源とする高瀬川、鹿島川、籠川等の清冽な河川や青木湖、中綱湖、木崎湖（仁科三湖）の天然湖とともに、電源開発による高瀬ダム・七倉ダムのほかに大町ダムの人造湖もあり、豊かな水資源に恵まれた地域です。



- 人口 : 26,029人
- 世帯数 : 10,739世帯
- 面積 : 565.15km²
- 特産品 : 米、そば、おやき、りんご、日本酒
- 観光名称 : 立山黒部アルペンルート(長野県側)、
仁科三湖(木崎湖、中綱湖、青木湖)
仁科神明宮

(※数値は令和2年国勢調査値)



2. 大町市のSDGsへの取り組み

大町市は、「SDGs未来都市」です。

大町市は、2020年7月に長野県内の基礎自治体では始めて「SDGs未来都市」として認定されました。

SDGs未来都市計画 SDGs共創パートナーシップ「水が生まれる信濃おおまち」サステナブル・タウン構想により「水」に関わるひと・しごとを主役とする経済・社会・環境の三側面から、まちづくりに向けた取り組みを進めることにより、100年先の未来においても、今と変わらない「水が生まれる信濃おおまち」を目指しています。

「水が生まれる信濃おおまち」サステナブル・タウンを実現



未来都市計画における特に注力する目標

魅力あふれ活力ある「まち・ひと・しごとづくり」を実現

「大町市第5次総合計画」にて策定した、基本理念と市の将来像を、市民等の多様なステークホルダーと共有。

基本理念

郷土や文化に誇りを持ち
心から地域を愛するひとを育てる

市の将来像

未来を育むひとが輝く
信濃おおまち

大町市らしい「まち・ひと・しごとづくり」

以下の、4つの基本目標の中で展開する各種施策・事業を、市民主体の産学官金公民連携による共創の力で、持続可能な「まち・ひと・しごとづくり」を実現する。

基本目標1 安定した雇用の場の確保と新規起業を支援する

市外への人口流出の主な理由として、魅力ある働く場が十分でないことが挙げられていることから、基幹産業である観光振興や既存産業の育成による地域経済の活性化を図り、安定した雇用と新規起業を創出する。

基本目標2 大町らしさを活かして新しいひとの流れをつくる

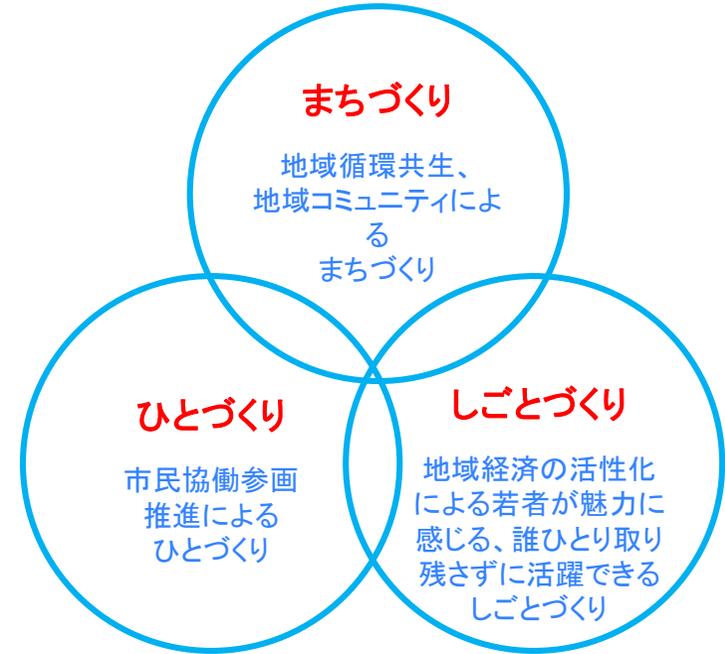
地域資源を最大限活用した観光振興および商品開発等により地域ブランドを確立。将来的に、移住・定住層となりえる「大町市のファン」づくりを見据えたプロモーション戦略を展開し、「関係人口」づくりを行い、新しいひとの流れをつくる。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

年間180人程度の出生数を確保することを目標とし、安心して結婚・出産・子育てできる環境を整備する。また、若年世代が安心して働ける質の高い雇用を生み出すとともに、結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援や仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を確保する。

基本目標4 安心安全な暮らしと時代に合った地域をつくる

結婚・子育て、医療や防災等の充実により、安心して安全に暮らすとともに、子供・女性・高齢者・障がい者・外国人等の誰もが居場所と役割を持ち、誰ひとり取り残さずに活躍できる地域社会にする。



2. 大町市のSDGsへの取り組み

基幹産業
観光業

本市の基幹産業を振興

地域の基幹産業である観光産業において、「通過型から滞在型観光地への進化」にあたり、従来のマス対象の観光戦略モデルから、将来のファンになり得る関係人口づくりに視点を置いた新しい観光振興モデルへの転換は必須である。観光・宿泊施設や交通機関だけが潤うのではなく、産業の掛け合わせで観光振興を支える事業者を増やし、地域経済全体を活性させ、魅力あるしごとづくりを増幅することを、市民から期待されている。

本市にとっての至高の地域資源を活用

豊富で良質な「水」資源を磨き上げることで、水資源を基盤とした地域循環共生都市の一先進モデルを形成。なお、豊かな自然の源から湧き出る水だけでなく、戦前の昭和14年頃からは、日本初のアルミニウムの生産本格化によって、「発電用」としての水の需要が高まり、発電所用の導水路が整備され始めた。戦後の昭和26年からは、青木湖発電所と平地域の新田開発のために、鹿島川から取水して青木湖に放流し、さらに導水路の途中15か所から灌漑用水を分配する、現在の水利用システムが完成した。本市では、このように、自然の水が、発電用・灌漑用・飲用・生活用・環境用水として、複雑なシステムのもとに、多様な使われ方をしており、その歴史とともに地域循環共生都市としての基盤を築いてきた。

主な飲料水



男清水と女清水を混ぜ合わせて飲むと、縁結び、夫婦円満の効果があるという「大町水物語」という伝説の幸せの水



標高900mの里山・居谷から街中に引く女清水(水質硬度13度)



アルピノウオーター 大町工場



AWウオーター 大町工場



サントリー 天然水北アルプスの森工場

水関連の主な観光スポット



大町ダムの夜景



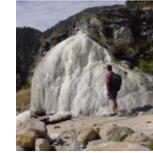
「北アルプスの鏡」青木湖



高瀬渓谷の紅葉



カクネ里氷河



天然記念物の湯股噴湯丘

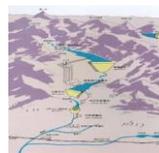
水利用の主な歴史



13世紀以前 仁科三湖・木崎湖と農具川の働き



昭和37年に大町新堰からの分水で整備された上原の「ぬるめ」



1968年～高瀬川の電源再開



高瀬ダム



青木湖からの水と高瀬川からの取水を再配分する昭和電工水路センター

至高の
地域資源
水

2. 大町市のSDGsへの取り組み



市民が主体の協働プロジェクト

地域資源を活かし、基幹産業である観光産業と他産業を掛け合わせ、市民が磨き上げる新しい観光振興モデル「サステナブル・ツーリズム」により、関係人口を育み地域を活性化。雇用と起業の創出、企業誘致の促進、自走に導くビジネスエコシステムにより、人口減少の克服に導く包括的モデルを創り、世界に波及するよう努める。

人口減少の克服に導く「サステナブル・ツーリズム」
先進的な関係人口づくり事業

経済

「水が生まれる
信濃おおまち」
着地型
コンテンツづくり

水スポットの再構築および
滞在型観光地化による
観光振興

社会

「水が生まれる
信濃おおまち」
ブランドづくり

「水」関連商品づくりによる産業振興
およびシティプロモーションの再構築
による
移住促進、企業誘致、創業促進

環境

「水の恵みに
感謝を！」
プロジェクト

「水育」をはじめとした企業主導
型の体験型教育プログラムによる
人材育成および環境保全

3つの
取り組みの
共通ポイント



至高の地域資源である「水」の活用

市民協働参画の取り組み



関係人口
の最適
・最大化



人口減少
の
克服

3. 信濃おおまち みずのわプロジェクト



信濃おおまち
みずのわ
プロジェクト
MIZUNOWA PROJECT
OMACHI, NAGANO, JAPAN

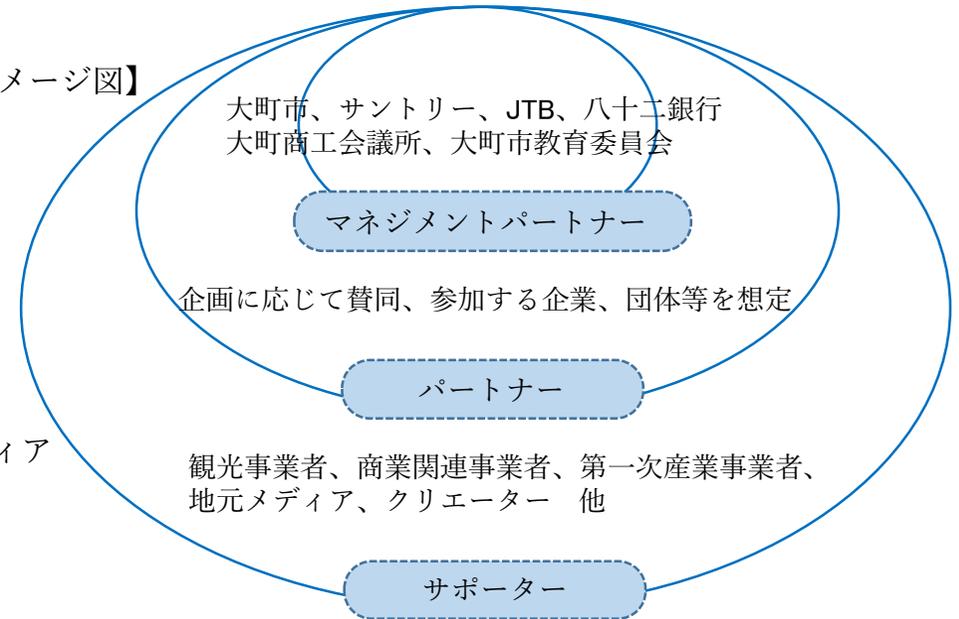
このプロジェクトは、令和2年12月に、SDGs未来都市計画を受け、産学官金からなる6団体をマネジメントパートナーに発足。多様なステークホルダーとの連携・協働を推進し計画の実現を目指す。

水を起点として、経済、社会、環境の3つの側面からアプローチして、人口減少の克服や地域の活性化、ひとづくりなど、課題の解決に取り組む。

【組織】

- ・ マネジメントパートナー
計画を具現化するための企画やマネジメントを行う。
大町市、サントリー、JTB、八十二銀行、大町商工会議所、市教育委員会
- ・ パートナー
計画に位置付ける個々の事業に係る市民や事業者
事業に応じて参加いただく企業
- ・ サポーター
事業に参加し、協働する市内外に関係者
市民、観光事業者、商業関連事業者、一次産業事業者、メディア

【イメージ図】



【取組み内容】

- ① プロモーション事業
 - ・ SDGs普及推進
 - ・ 地域ブランド振興
- ② 観光を中心とした地域経済の振興
- ③ 健康で安心して暮らせるまちづくりと移住・定住の促進
- ④ 最大の資源である森林・環境保全

4. 具体的な取組み

地域ポータルサイトの構築

自然や地勢、観光、産業などの当市の情報を分かりやすく伝えることで「水が生れるまち」としてのブランディングの強化を図るとともに、サイト内にECサイト「Mizunowa Marché（みずのわマルシェ）」を設け、全国各地へ当市の名産品を届けています。



SDGs学習旅行誘致協議会の設立

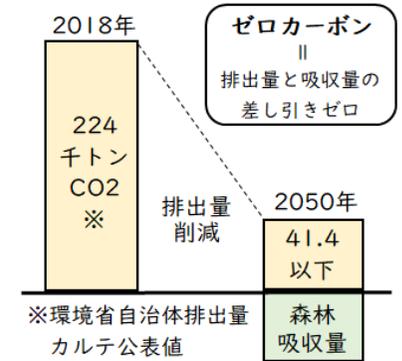
通過型から滞在型観光地へ、新たな客層の呼び込むため、SDGs視点を取り入れた「水」と「エネルギー」を学ぶ学習旅行プログラムを市内事業者と協力し、プログラムを造成して取り組んでいます。看板商品として黒部ダム建設当時を再現した歩荷体験や削岩機体験ができる黒部ダムで初めての体験型コンテンツの造成をしています。

4. 具体的な取組み

ゼロカーボンシティ宣言

2022年3月に大町市ゼロカーボンシティ宣言「2050年脱炭素社会を目指して」を表明し、2050年までに市域の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする目標を掲げ、二酸化炭素排出量の削減と森林整備を進め、排出量目標や排出抑制に向けた取組みを進めています。

豊かな水資源や森林資源による小水力発電や木質バイオマスなど地域特性を活かした再生可能な自然エネルギーの普及と省資源、省エネの推進を図る。



環境保全活動

企業等と連携により、里親協定を締結しながら水源涵養と土壌保全の森林整備活動を実施。また、市民による春、秋の年2回の水路等の一斉清掃の実施しています。

次世代環境教育の推進

プロジェクトのマネジメントパートナーでもある、サントリー様と連携し小学生を対象とした「水育」の出張授業や、さらに、信濃の森工場での「森と水の学校」の開校などの取組みを通じ、子供たちが自然の素晴らしさを感じ、水や、水を育む森の大切さに気づき未来に今と変わらない水を引きつぐための授業として推進しています。

ご静聴ありがとうございました



【大町市SDGsの取組みに関する
お問い合わせ】

長野県大町市 総務部企画財政課
〒398-8601 長野県大町市大町3887
Tel:0261-22-0420 Fax:0261-23-4304
E-mail: SDGs@city.omachi.lg.jp
HP <http://www.city.omachi.nagano.jp>



OMACHI